



2025年11月17日、日本国際問題研究所グローバル・アウトリーチ・センター（CGO）設立記念シンポジウムを開催しました。

会場参加者200名超、オンライン参加者500名超を迎え、盛会のうちに無事終了いたしました。本シンポジウムの開催にあたり、ご支援・ご協力を賜りましたすべての皆様、ならびに世界各地からご登壇いただいたパネリストの皆様に、心より御礼申し上げます。



シンポジウムは、日本国際問題研究所（JIIA）理事長の佐々江賢一郎大使による開会挨拶で幕を開け、続いて、Sakana AI共同創業者兼COOの伊藤練氏による基調講演が行われました。シンポジウム開始直前には、Sakana AIの企業価値が約26億米ドルに達し、未上場の日本のスタートアップとして最大規模とみられることを日本経済新聞が報じました。このタイムリーなニュースは、伊藤氏の躍動感あふれる基調講演に、さらなる重みを加えるものとなりました。



• パネル1 — 政治・安全保障

山田川Aグローバル・アウトリーチ・センター（CGO）所長がモデレーターを務めたパネル1では、ますます予測困難さを増す世界および地域情勢の中で、いかに平和と安定を守るかについて議論が行われ、パネリストからは、以下の点が強調されました。

- インド太平洋地域における地域協力と関与の重要性の高まり。
- 米国、インド、東南アジアをつなぐ「架け橋」としての日本の建設的な役割。
- 2026年に迎えるFOIP（自由で開かれたインド太平洋）10周年にあたり、そのビジョンを更新し、インド太平洋諸国の連携を再活性化する重要な節目と位置づける必要性。





・ パネル2 — 経済・通商

本パネルでは、WTOを含む多国間経済秩序を維持・強化する必要性が強調され、CPTPP（環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定）の将来を含め、信頼性ある地域・グローバル経済アーキテクチャをいかに再構築するかについて議論が行われました。

その中で、ルールを強化すると同時に、経済の強靱性および経済安全保障を高めることの重要性が共通認識として確認されました。





パネル3 ― 地域連携・グローバル課題

- 最終パネルでは、ASEAN主導の枠組みを含むグローバルおよび地域のガバナンス体制を検討するとともに、気候変動や金融市場におけるサイバーセキュリティといった喫緊の課題が取り上げられました。

グローバルなリーダーシップの低下と不確実性の深まりを背景に、地域および国際的な安定と協力を支える上で、日本の役割が一層重要になっていることが強調されました。



